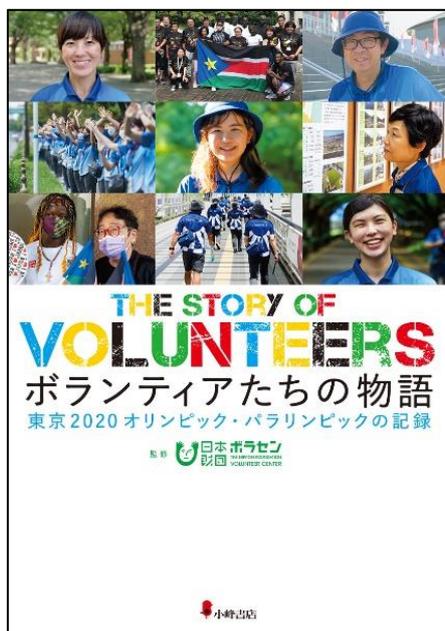


東京 2020 大会のボランティアの歩みをまとめたノンフィクション児童書 「ボランティアたちの物語 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの記録」 3/30(水)発売!

公益財団法人日本財団ボランティアセンター（以下、「ボラセン」）は、東京 2020 大会におけるボランティアの活躍をまとめたノンフィクションの児童書「ボランティアたちの物語 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの記録」を制作し、3/30(水)に小峰書店（本社：東京都新宿区、小峰広一郎代表取締役社長）より刊行いたしましたので、お知らせいたします。対象年齢は小学校高学年からですが、大人も楽しめる読み応えのある一冊となっております。幅広い周知のほど、どうぞよろしくお願いたします。



■概要

2020 年に開催されるはずだった東京 2020 オリンピック・パラリンピックは新型コロナウイルス感染症の影響で、1 年延期となり、多くの会場では無観客での開催となりました。205 の国と地域からやってきた約 1 万 6,000 人の選手と、その熱き戦いを、約 9 万人のボランティアが支えました。ボランティアたちの、この大会に参加するための道のり、思いはどんなものだったのでしょうか。9 万編の物語がそこにはありました。

本書では、下記 6 つのボランティアの物語を紹介します。

- ・アスリートを支えるスポーツドクターを目指す若き医師
- ・東日本大震災の体験を伝える宮城県の語り部ボランティア
- ・南スーダン選手団とボランティア、ともに歩んだ 1 年 9 か月
- ・閉会式にも登場！スポーツをとことん楽しむ車いすユーザー
- ・聴覚障がいのあるアスリートと自転車金メダリストとの友情
- ・白状を片手にパラリンピックを支えた視覚障がいのある学生

また、書籍末尾の QR コードからは、ボランティア活動の感想などを記載できるワークシートも PDF 形式でダウンロードでき、ボランティア活動後の振り返りにも使えるようになっています。

■制作のねらい

東京 2020 大会はコロナ禍での開催となり、それに伴い大会を支えるボランティア活動も活動自体の喪失、あるいは役割の変更などがありました。しかし、活動機会を得られた大会ボランティア、都市ボランティアの皆さんはいつも笑顔で、明るく楽しそうに活動していました。

そんなボランティアの活動を後世に残し、大会の成功を支えたボランティアの人たちの想いを子どもたちに知ってもらいたいと考え、本書を制作しました。本書の主な対象は小学校高学年からですが、大人でも読み応えのある内容となっています。本書を通じて、過去に例のない環境下で行われた東京 2020 大会のボランティアについて広く知っていただければと願っています。

■書誌情報

書名：ボランティアたちの物語 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの記録 (A5判、192ページ)

発売日：2022年3月30日

定価：1,980円 (本体1,800円+税)

商品詳細ページ：<https://www.komineshoten.co.jp/search/info.php?isbn=9784338081726>

■目次

CONTENTS	
<p>藤本華奈さん Great Race! 前を向く 8</p> <p>須藤扶美子さん 今の私にできること 38</p> <p>南スーダン選手団通訳ボランティア 1年9か月の絆 いつまでも 66</p> <p>堀川裕之さん 1964-2020 夢は続く 96</p> <p>早瀬久美さん 「共生社会」を体現する 126</p> <p>秋吉桃果さん 障がい者と社会をつなげたい 154</p> <p>コロナ禍、延期、無観客……前例のない東京大会 平和への祈りをこめたスポーツの祭典オリンピック 34</p> <p>ボランティアが支える大会 92</p> <p>進化を続けるパラリンピック 122</p> <p>パラリンピアンを支える多くの人々 150</p> <p>データで見る東京2020オリンピック・パラリンピック 178</p> <p>東京2020大会を支えた日本財団ボランティアサポートセンター 182</p> <p>東京2020大会へ向けての歩み 184</p> <p>日本の新しいボランティアカルチャーをつくる 「日本財団ボランティアセンター」発足 188</p> <p>ボランティアは、身近なところにある! 190</p>	<p>もっと知りたい 東京2020大会</p>

※本書では、マスクを戴いた写真掲載の際は、新型コロナウイルス感染症の感染防止に配慮し、十分な距離を取った上で撮影するなどの対策を行いました。

■その他ページ

前橋にやってきた南スーダン選手団をむかえる

「South Sudan」南スーダン

2021年7月23日、東京2020オリンピックの開会式に、南スーダンの選手たちが入場してきました。

はなやかな舞台で、両手で高々と国旗をかかげるアラハム選手。小さな国旗をふりながら堂々と歩くルシア選手。両手を上げるコーナのジョセフ。緊張と喜びに満ちあふれた瞬間です。群馬県前橋市では、これまで選手たちを支えてきた通訳ボランティアの人たちが、それぞれ自宅で、選手たちを見つめていました。

新型コロナウイルス感染症により、無観客で行われた開会式。ボランティアの人たちは、直接、選手たちの姿を見ることはかきませんでした。それでも画面のなかの彼らに、ついにここまで来たという感動、選手たちをほこらしく思う気持ち、そして……全員がこいれば……という痛み、さまざまな思いで胸がいっぱいでした。



南スーダン選手団通訳ボランティア
1年9か月の絆
いつまでも

※：通訳が写る写真：水原直紀

左から多助早織さん、ルシア選手、志村英博さん。

世界でいちばん新しい国南スーダンから2019年に来日した5人の選手団。1年9か月間彼らに寄りそい、支え続けた前橋市の通訳ボランティア。東京2020大会に向けた長いチャレンジのお話です。



もっと知りたい
東京
2020
大会

コロナ禍、延期、
無観客……
前例のない東京大会

56年ぶりの東京大会決定！

2013年9月7日、IOC(国際オリンピック委員会)総会で、ジャック・ロゲ会長は高らかに都市名を語り上げました。

「TOKYO！」
最終プレゼンテーションの結果、トルコのイスタンブールとスペインのマドリッドをおき、東京が2020年の夏季オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市に選ばれた瞬間でした。

世界がコロナに苦しむ、1年延期へ

2020年になり、「新型コロナウイルス感染症」の影響が世界をおおいます。スポーツ界も例外ではなく、1月22日、中国の武漢で予定されていたホクシングのオリンピックアジア・オセアニア予選が中止になりました。その脅威は徐々に世界へと広がり、3月11日、WHO(世界保健機関)のテドロス事務局長は、「新型コロナウイルス感染症は世界的規模での流行といえる」という認識を示しました。このことから、大会の開催について疑問の声が上がり始めてきたのです。

しかし代表選考会や国際大会などが次々と延期や中止となり、選手たちは練習場の確保にも苦労する状況におちいつていました。各競技団体から早い決断をうながす声が高まり、ついに3月24日、バツハ会長と安部三総理大臣(当時)が「大会の1年程度の延期」で合意しました。189年に近代オリンピックが始まってから、開催延期は史上初の出来事でした。

共同声明には「世界が暗いトンネルのなかにある光明になれるはず」とありました。しかし大会4ヶ月前の延期決定は、さまざまな混乱をもたらしました。新型コロナウイルスの収束の具合も読めず、難しい調整を迫られるアスリートのなかには引退を決める人もいました。チケットの払い戻しや、ボランティアの活動日程の組み直しなど問題は山積みでした。

■ワークシート

THE STORY OF VOLUNTEERS
ボランティアたちの物語
東京2020オリンピック・パラリンピックの記録

ボランティア活動ワークシート

ボランティアをふりまわろう！

やってみたボランティア

活動した日時と場所

いっしょに活動した人

印象に残ったこと/反省点/次にやってみよう活動 など

日本ボラセン 小峰書店

公益財団法人日本財団ボランティアセンター (ボラセン) 概要
ボラセンは、2010年にNPO法人日本財団学生ボランティアセンターとして設立し、学生のボランティア活動を支援してきました。2015年に一般財団法人へ、2017年に公益財団法人へ移行。そして2022年に「日本財団ボランティアセンター」へと名称変更し、学生だけではなく幅広い世代を対象に、ボランティアに関する事業を実施しています。
所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル4階 会長：小宮山宏(株式会社三菱総合研究所 理事長)

【本件に関するお問い合わせや取材】日本財団ボランティアセンター 広報部 倉田
電話：03-6206-1529 FAX：050-6865-3420 携帯：070-7514-4529 Email：pr@volacen.jp

